

交通安全

平成28年度

作品集

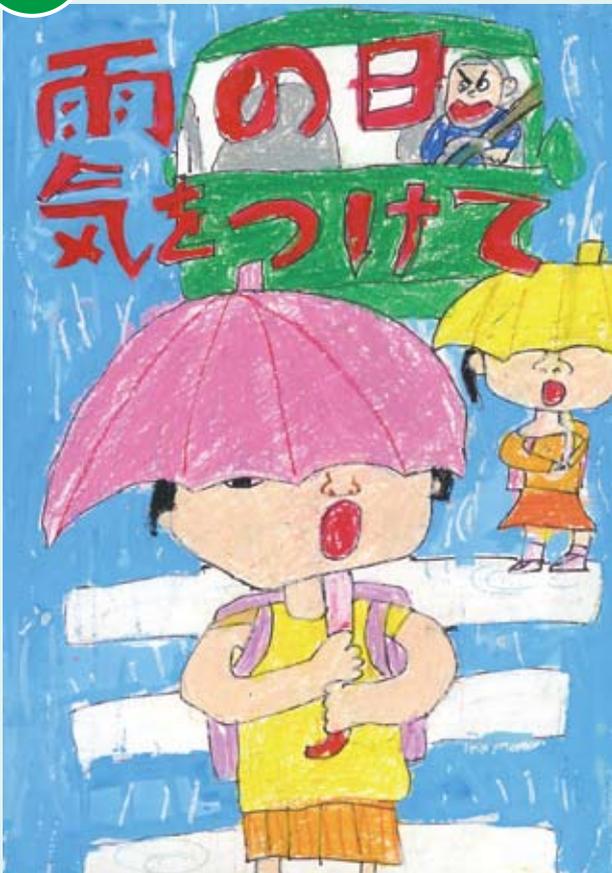
豊田市交通安全市民会議

豊田市議会議長賞



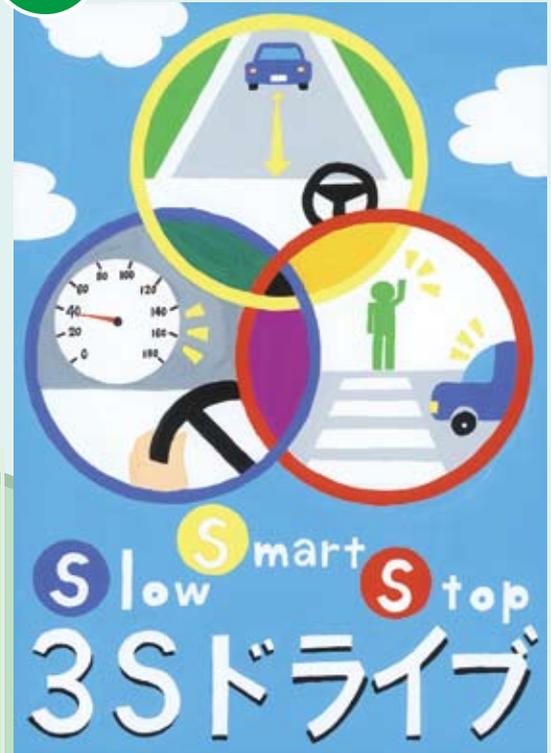
高原 茉凜 (大林小6年)

豊田市長賞



山田 茉暖 (駒場小2年)

豊田警察署長賞



笠井 美穂 (猿投農林高1年)



目次

交通安全作文の部

《最優秀作品》 6点				1ページ
① 豊田市長賞	佐藤 美緑	大林小学校	6年	
② 豊田市議会議長賞	鈴木 陵仁	豊田西高等学校	1年	
③ 豊田警察署長賞	村上 猛	大清水町		
④ 足助警察署長賞	村松 静葉	高橋中学校	3年	
⑤ 豊田市教育委員会賞	芝原 千尋	高橋中学校	2年	
⑥ 豊田市交通安全市民会議会長賞	光本 羽那	高橋中学校	1年	
《優秀作品》 6点				13ページ
《佳作作品》 2点				25ページ

交通安全ポスターの部

《最優秀作品》 6点				表紙・裏表紙
① 豊田市長賞	山田 茉暖	駒場小学校	2年	
② 豊田市議会議長賞	高原 茉凜	大林小学校	6年	
③ 豊田警察署長賞	笠井 美穂	猿投農林高等学校	1年	
④ 足助警察署長賞	山田 健太郎	稲武中学校	2年	
⑤ 豊田市教育委員会賞	石橋 善心	若林東小学校	3年	
⑥ 豊田市交通安全市民会議会長賞	後藤 愛	朝日小学校	4年	
《優秀作品》 11点				29ページ
《佳作作品》 46点				31ページ

交通安全標語の部

《優秀作品》 9点				37ページ
《佳作作品》 24点				

交通安全まんが

39ページ

「我が家の両親の出来事を聞いて」

大林小学校 六年

佐藤 美緑

「また、歩道に自動車が増え、歩行者が事故に巻き込まれました」と夕方のニュースが告げた。

すると、お父さんが真剣な顔をして、「俺と同じだ。」とつぶやいた。そして、

「俺が三歳の時、歩道を歩いていたらダンパーが突っ込んできて、右足をなくしてしまっただんだ。」と話してくれた。

「長い間入院して、義足で歩けるようになるまで練習したら、小学校に通えるようになった。いろいろな苦勞もしたけど、楽しいこともあったよ。」

と話してくれた。
私は、「苦勞した」という意味はすぐに分かった。お父さんは今でも「足が痛い」とか

「ここは足場が悪いから、お父さんが行くのは無理かな」と言っている。普通の自動車の運転は難しいので、車屋さんに頼んで自動車も乗りやすくしてもらっている。私もお父さんが義足をなく手伝いをすることもある。でも、「楽しいこともある」と笑顔で言うお父さんの気持ちから分らない。不思議に思っただけで理由をたずねると、お父さんはまた笑って答えてくれた。

「だって、生きているんだ。だから、お母さんと会えたし、美緑にも出会えたんだ。」私はそれ以上何も聞くことができなかった。ただ、お父さんがよく言うのは、「歩行者もとても危険なことをやっている人もいるから、美緑も注意しなさい。」という言葉だ。

お父さんと同じようになっただけじゃなく、私にいつも注意するのだ。私のことを心配してくれているからなんだと思う。また、お母さんも若いころに交通事故にあ

って、長い間入院したことがあるそうだった。

お母さんは仕事の帰りに友人の車に乗っていて、対向車と正面衝突してしまっただろうた。お母さんは全身大けがで、運転していた人は亡くなっってしまった。相手の運転手はお酒を飲んで運転していたそうだが、軽いけがですんだらしい。

お母さんはその事故が原因で、心臓の弁が壊れてしまったのだが、そのことが分かったのは事故から十二年経ってからだった。私を

産むときに心臓が悪いことが発覚して、子どもを産むのは難しいと病院で言われたそうだが、お母さんは私を産んでくれた。だから今、私がいて、私たち家族が笑っていられる。

私もお母さんと買い物に行くときに横断歩道を渡っていたら車が来て、事故にあいそうになったことがある。お母さんはびくりして立ち止まり、すぐに私の心配をしてくれた。お父さんが言っていた「歩行者も注意をしないといけない」という言葉の意味がよく分か

った瞬間だった。

お父さんは旅行先では絶対にお酒を飲まない。子どもやお年寄りを見かけると、スピードを落として運転したり、交差点や駐車場で人がいないかどうかを確認したりして運転している。

「交通事故は、被害者も加害者も両方が不幸になる。俺が俺と同じような人を出すわけにはいかないだろう。」とお父さんは口癖のように話してくれる。

お父さんたちの話を聞いて、交通事故はいろいろな傷を残すことが分かった。亡くなったり、後遺症が残ったりする事で、被害者はもちろん、その家族の心にも傷を残すことになる。そう考えたら、お父さん、お母さんのような人が一人もいなくなっただけでいい。

運転する人も歩行者も、みんなが気を付けて生活することで交通事故をなくし、笑って過ごしていけたらいいなと思う。

大切な人のために

豊田西高等学校 一年

鈴木 陵仁

それは、ほんの一瞬のできごとだった。

たっ、た一瞬のことであったけれど、今でも鮮

明に思い出すことができる。

あの一瞬がなければ、今ごろ自分はどうな

っていただろう。「交通事故」を軽視して、自

分とは無縁なものだと考え続けていたに違

ない。

その一瞬は、母の誕生日にやってきました。

いつものように学校へ行き、部活をして帰っ

てきた後、「何かプレゼントでも買って、母を

喜ばせよう」とそう思い立ち、自転車で乗り

雑貨店へと向かうことにした。

呑気に買い物へと向かっていたのは良いもの

もうすぐに習い事の時間が追っていた、余裕

はあまりなかった。その時の自分は、きつと

時間間に合うことばかりに必死になつて、

交通安全のことなど微塵も考えていなかった。

のだろう。今思い返してみると、その頃の自

分の時間ルールズな性格も、事故を引き起

す大きな要因の一つだった。たのかわしれない。

勢い良く坂を下って、交差点に差し掛か

たその時だった。自分の右側から、白の自動

車が追ってくるのが見えた。

「危ない」

と。急にブレーキを握りしめたが、その時

にはもう遅かった。気づいたときには自転車

と一緒に道路に倒れこんでいた。へこんだ自

動車と自転車、駆けつける通行人、体に走る

痛み、焦り、不安……。今までに見たことな

い光景と、いろいろな感情が一気に押し寄せ

て、パニックになつていたことをはきりと

覚えていた。

それからしばらくして、母が迎えに来たく

れた。そのときの母の悲しげな表情は、今で

も忘れることができない。

「プレゼントをくれようとした気持ちほと

ても嬉しい。でもそのせいであなたが事故に

あ、ていたら元も子もないでしょう？あなたを大切に思う人の気持ちも考えてみなさい。どれだけ不安で、どれだけ心配だ。たぶん、か。帰りの車で母が言。た一言だった。その時ようやく、母だけではない、その他の多くの人々にも迷惑をかけたのだということを知った。

自分はこの事故を通して、なぜ交通事故に気をつけなければならぬか、大きな理由が分か。たような気がする。それはきっと、自分の身を守るため。などという単純なことではなく、「自分を大切に思。てくれている人を悲しませないため」だと思。う。

一度真剣に考え、み。てほしい。いったいどれだけの人が、「交通事故」を身近なものなのだと捉えて、普段から危機感をも。っているだろうか。ほとんどの人が、意識をせずに生活をしているのが現状ではないだろうか。

そんな人は一度、身近にいて大切な人を、思い浮かべてほしい。人は自分のために何か

できなくても、大切な人のためだと大きな力を出せるときがある。これからは「交通事故」に気をつけて普段から意識をして生活してみ。てはどうだろうか。今思い浮かべた、大切な人、大切に思。てくれている人を悲しませないためにも。

「爺さんの安全運転四ヶ条」

「ご同輩の皆さんと一緒に!!」

大清水町

村上 猛

新聞を開くと「高齢者の交通事故多発」という記事が掲載されない日がないほどだ。

私も後期高齢者で七十六歳になる。

事故情報も聞くたびに、自問自答の毎日が続いている。そこで私は、自身が実践している安全運転四ヶ条を整理してみた。

まず第一は、健康な心身を維持すること。

妻と二人で、それこそ雨が降っても、風が吹いても、毎日四キロと一時間のペースで散歩している。又、趣味のゴルフが上達しないかと、これも毎日素振り一〇〇回と、柔軟体操を実施している。所要時間は三十分程度だが、気分は爽快でストレスが一拳に吹っ飛んでしまう。

私は、この健康維持法で少しは、運転の基本である、認知、判断、操作、の保持に役立つ

つていと確信している。

第二は、「高齢運転者標識」の貼付だ。

最近まで実は貼付していなかった。

「恥ずかしい」「ラフとラしい」「なにか馬鹿にされるのではないか」そんな先入観があり妻に諭されるまで「ガン」として貼付しなかった。若い頃、高齢者マークを付けている車を見ると、「早くいけよ、イライラする」と見境もなく愚痴っていた私。

それが一転したのは、妻の一言である。

「古希を迎えるとマークを付けた方が安心だよ、とお巡りさんが言っていましたよ。」

これには一本取り付けた。妻は私より運転免許取得が早く大ベテランのドライバーだ。

それからは確実に付けているが、実際に大変感謝したことを紹介すると、稲武方面にドライブした時のことだ。後方から来た車が一旦接近してきたが、その後は十分な車間距離を保って走行してくれた。これをまさに「高齢者マーク」の効能と感謝している。

第三は、愛車の洗車は自分の手で。

私の感覚だが、車を手洗いすることによって愛車が呼びかけてくる。「ご主人様ありがとうございます」「私のタイヤを見て下さい。少し摩耗してきましてたよ」と黒い涙を流しながら話しかけてくる。又、ある時は「ホイールがグググしていますよ。左折時は縁石に注意して下さいね」と。又、車内を清掃していると、「フットレスト」が、「私を十分活用して下さいね。運転姿勢の若干悪いご主人、私をしっかり活用して危険回避に役立てて下さい」と、誠に有難いことである。この呼び掛けに答えて、十分暇のある爺さんは、十日に一回は洗車に努めている。洗車後の美しくなった愛車に乗ると気分爽快で心の安定とストレス発散に役立つし、まして遠出などする時は、余裕ある行動が必然的に沸いてくる。

第四は、家族のアドバイスと素直に聞き入れることに努めている。

まずは、助手席には「大ベテラン」の妻を

乗せてよくアドバイスを受けている。

交差点の対応では「左ヨシ、後方ヨシ」。駐車時の確認では、この上ない安心感があり、少々苦手なバックも容易に出来る。

これは助手席に座る者の当然の責任だが、最も大切なのは、息子や孫の一言である。

「爺ちゃん、そろそろ運転は昼間だけにしたら」と孫の一言。その側にいた息子も同様「免許更新したとしても、夜間や雨の日の運転は止めとけよ」と、アドバイスをしてくれ

た。少し虚栄心を傷付けられた気持ちになったが、素直になれよ、人の忠言は謙虚に受け入れよう。有難いと思うようにしよう。

この事があって以来、夜間と雨降り時には極力、運転は控えている。これかろう他人の忠言は真摯に受け留め、安全運転に徹したいと思う。

足助警察署長賞

「たった五分で変わることに」

高橋中学校 三年

村松 静葉

私は、中学校に入って自転車通学になりました。一年生前期までは、何十分もかかって登下校していましたが、今では十五分程度で学校に着くことが出来ます。

しかし、私は出発予定時刻の五分前には、家を出発していません。

理由は二つです。

一つ目は、私の使う通学路についてです。

私達、扶桑の通学路は歩道がありません。

その上、側溝もあるので、後ろに荷物に乗せて走るのには、慣れてない一年生の頃は、とても大変でした。

更にバスなども走っており、車の交通量も多いため、車との距離が近い私達の通学路は、とても危険です。

二つ目は、通学路で体験した出来事についてです。

それは、二年生の冬のことでした。

その日の朝はとても寒く、前日の雨も手伝ってか、道路脇の鏡も、真白で何も見えませんでした。

私は、朝集会で急ぎたかったので、いつもはしている、脇道から車が来るかどうかの確認をせずに、その道を横切りました。

運良く車は出てこず、「なんだ、心配することなか。たじかん」そう思った刹那のことです。

ビュンと音がして、脇道から車が、もの凄く速度で飛び出してきたのです。

私は驚きました。一分、一秒でも遅かったら、私は死んでいたかもしれませんが。

実際、私は運良く事故にあうことはありませんでした。私同様に確認せず道を横切った生徒も少なくはなく、大事故にはならずとも、同じ場所で多くの生徒がケガをしているそうです。

車の町と言われるほどの豊田市や、その豊

田市がある愛知県では、交通事故がとてもの多いです。

交通が便利になると同時に、多くの命がその犠牲になっていると感じました。

私はあの冬の出来事以来、時間に余裕を持って、どこかに出かける様になっています。

それは確かに、事故の恐怖心からもありますが、何より、私自身が加害者になりたくないと思います。だからです。

自分があの時、時間に余裕を持って行動していれば……。そんな後悔はしたくないし、自分のせいで、小さな子供や小学生、おじいちゃんやおばあちゃんにケガや怖い思いをさせってしまうのは嫌だと思ったからです。

たった五分の時間の余裕は、自分だけでなく、他の人の命をも守ってくれているのだと思います。

私は、五分の時間の余裕で命を守っています。

中には、五分もあつたら色々出来るじゃない

いかと思っっている人もいるかもしれませんが、確かにそうです。

でも、考えてみて下さい。

たった五分で幾多の命が安全を保証されるのです。それ以上に大切な「色々出来る事」がこの世界に存在しますか？

たった五分で変わることに、それは、時に自分の生命であり、時に他の人の生命だと思います。

皆さんも、たった五分の時間の余裕で、幾多の命を守ってみてはどうですか？

それが広がれば、便利で安全な愛知県、そして豊田市になると思うのです。

たった五分で変えられる命。

貴方はその五分を、どう使いますか？

「大切な命」

高橋中学校 二年

芝原 千尋

「芝原さん、お迎えきてますよ。」

それは、部活中顧問の先生に言われた一言だった。私はよく分からないままかばんをまじめ下に降りた。おりかえしお母さんに電話をすると、

「今からお父さんが迎えに行くから。」

私はなぜだか分からずだまっていた。

「みくが車とぶつかって今病院でさ、お父さんが迎えに行くまで、家の方向に歩いて帰って。」

みくは私の姉である。姉が事故にあったことを、さら々と言われたため、実感がまわらなかった。学校を出て、家へと向かい歩いていくと、前からすごい速さで車が近づいてきた。車には、父と妹が乗っていた。車の窓から、

「早く乗って。」

と声かした。

あわてて乗ると、すぐ病院へ向かった。私の身近で事故がおきたことは初めてだった。車の中で父と妹に詳しく話を聞いた。姉は高校から帰る途中に自転車と車にぶつかって、顔にけがをしてお話を聞いてから、大丈夫だろうかと不安になった。病院についた。姉の所へと向かい、病室へ入った。大けがだった。顔をみるのが怖いと思った。おそろおそろ見てみると、やっぱり痛そうだった。でも、あまりたいしたけがではなかったから安心した。安心したのもつかのま、その後が忙しかつた。病院を出た後は、警察署に向かった。それから、父、母、姉と警察署の方が話をしていた。話を聞いていると姉は、左側を走らないといけなのを右側を走っていて、ぶつかつたと分かった。

身近で交通事故がおきたことがなかったため、今回の姉の交通事故を通して、大切なことを学んだ。左側通行など決められているル

ールをしつかり確認すること、スピードの出
しすぎに注意をすること、周りを確認するこ
と、ヘルメット着用など、できていそうので
きていないことがあるのが分かった。そして、
学校の先生、友達、警察署の方々、病院の方
々、加害者、家族など、多くの人々に心配さ
れ、迷惑をかけていることが分かった。

学校でよく自転車事故が多くなっているか
ら気をつけてくださいと言われる。私は徒歩
で登下校をするため、あまり気にしていなか
ったけれど、交通事故は突然起きることだか
ら、これからは自転車が出かける時など、使
う時は、十分気をつけて乗つていこうと思っ
た。そして、もう身近で事故がおきないよう
に周りの人にも声をかけたいと思った。

私の姉は今回の事故でたいした傷ではなか
ったが、自転車事故だけでなくいろいろな事
故で、悪ければ死亡してしまう事故も多くあ
る。交通事故に遭わないだけでなく、遭わせ
ないことも気をつけたいと思った。自転車に

乗って、歩いていっている人をひいてしまえば、け
がをさせてしまうこともあるかもしれないの
で、自転車事故が多くなっている今、被害者
も加害者も増やささないように、一人一人が意
識することが大切である。

豊田市の交通事故発生件数は、毎年二千件
以上おきていることが分かった。今年では、
すでに九百件近く事故がおきている。事故で
千人以上もの人が亡くなっているのが今の現
状だ。しかし、これは一人一人の意識が変わ
ることである。

「自分を見つめ直して……」

高橋中学校 一年

光本 羽那

私が小学三年生のとき、兄が事故に遭いました。

「ただいま」

兄が部活から帰ってきたので、迎えに行くところ、血が体のところどころから出ていました。母がそれを見て尋ねると、自転車で乗って坂道を駆け下りてい、たら車の後部座席のドアに

接触してしま、たと言いました。兄の自転車は疲れ果てたようにぼぼこでした。

その後、兄は父と警察へ行きました。結局、車に乗っていた方が加害者となり、自転車を新しく買、てくれるまでしてくれました。

私はそのときはまだ幼か、たので、正直兄が生きていてくれたことよりも、自転車がもらえることの方が嬉しか、たです。

そこで、中学生にな、た私は二つのことについて考えてみました。

一つ目は、ヘルメットの大切さです。今、兄が事故に遭、た日のことを考えてみるととても怖くなります。兄はそのときヘルメットをかぶ、ていました。しかし、もしヘルメットをかぶ、ていなか、たら……。兄が生きてくれていて今ではとても嬉しいです。それと同時にもう飛び出しはしてほしくない思いとヘルメットの大切さを感じました。

中学生になると、ヘルメットをかぶらない方がか、こいいと思、てしまうそうです。し

かし、私は見た目はようでも心の面ではか、こ悪いと思います。自分の命より、人の目を気にする人は人間としてどうかと考えました。

二つ目は、事故が起こる原因です。兄の事故を参考にしてみると、車も自転車も止ま、ていなか、たことがわかります。き、と、お互いどちらかが止ま、てくれると考えたのでしよう。

逆に、ゆずりあいの気持ちがあ、たらにもあれば事故は起こらないということです。しか

し、そのことを知っていたとしても事故が起きてしまふのはなぜでしょうか。

私は、気持ちの問題だと考えました。さっきも紹介したようなお互いのことを勝手に信頼してしまふ気持ち、そしてもう一つは焦る気持ちだと思いました。

私も、焦って事故に遭いそうになったことがあります。その時は、寒気がして深く反省をしました。「時は金なり」とありますが、命もお金には変えられません。も、と一つしか

かない命を大切にしよう、そう思った瞬間でした。

夏休みになると、少し友達と自転車で出かけたりますることが多くなると思います。私も最近、駅の方まで出かけて部活の物などを友達と買いに行きました。自転車で駅まで行くのは初めてだったのでワクワクしていました。駅に着いて最初に思ったことは車がたくさん通っていたことです。周りに気を付けながら運転をしました。

また、歩道を通る時に、お年寄りの方が四、五人止まってしゃべっていることが何度かあったので少し困りました。そんな時は自転車から降りてよけるのが一番良いと思います。

このように、改めて色んなことを考えてみると自分が今、何をすれば良いのかが分かってくる。兄の接触事故で感じたこと、自分の経験から学んだことをこれからも忘れずに交通事故に遭わないように心掛けたと思います。

みなさんも、困ったことがあったら少し立ち止まって考えてみるはどうでしょうか。きっと、今の自分を見つめ直し、改善点が見えてくると思います。

「安心・安全な街を目指して」

高橋中学校 一年

松井 美羽

私は、事故によって壊れた車を目にする機会がよくあります。なぜなら、父が自動車修理業をやっているからです。これだけ毎日、自動車の事故がおきていることを目の当たりにして、事故の多さを身近に実感しています。私の家の近くには、とても危険な場所が二つあります。

一つ目は、道がとても細く、カーブしており、非常に見通しが悪い所です。いつ事故にあってもおかしくありません。歩行者が右側を歩いていたら、車の人は気づかず事故を起こしてしまう可能性が高いです。それに、民家の車庫から車はみ出て止まっていることもあるため、歩道から車道に出なければいけないので、もっと危なくなります。私は、なるべくこの道を通らないようにしていますが、通るときはゆっくりと左側を歩いて、車が来

ないかしっかりと確認しています。でも、何度かヒヤッとしたこともあります。危険な道だと分かっているのに、交通ルールを守らずに、スピードを出して通る車が多いからです。事故を防ぐためにも、歩行者がいなくてもゆっくり安全に運転してほしいです。

二つ目は、横断歩道があるのに、信号のない所です。その横断歩道のある道は、非常に交通量が多いです。とても危険なので、信号のある横断歩道に行かなければいけません。

ここは、時速四十キロで走らなければいけない道です。しかし、交通量が少ないときは、スピードを出している車がとても多いです。私は、それを見て非常に危険だと思いました。なぜ、信号がないのか不思議です。大事故になつてからでは遅いと思います。だから、事故を防ぐためにも一刻も早く、信号をつけてほしいです。

先日、曾祖母が七くなりました。私はとても悲しく、つらい気持ちになりました。私の

他にも、たくさんの人が涙を流していました。それほど、命は大切なんだと強く思いました。事故は、ある日とつぜんやってくるので、残された家族はとても悲しい気持ちになります。もし、私が事故にあつたら、悲しむのは私だけではありません。それ以上に周りの人が悲しみ、心配させてしまうと思います。だから、自分の命は自分で守る。という強い信念を持ち続けていきたいです。また、危ない子を見かけたら声をかけてあげ、周囲の人に気遣いのできる人になりたいです。事故を防ぎ、個々の大切な命を必ず守っていきたいです。

また、高速道路で百台以上のバイクが横に並んで走っている所に遭遇しました。私は、それを見てとてもおどろきました。なんで、こんなことが出来るんだろうかと思いました。同じ人間のする行動とは到底思えない状況でした。それと同時に、こんな大人がいるということに失望しました。その人達は、高速道

路上に花を指向していたので、以前にここで友達が事故で亡くなったのではないかと思いましたが、そんな運転をしているから仕方がないと思いました。他の人の迷惑にならない、交通ルールを守った思いやりのある運転をしてほしいです。

私は、一瞬の気のゆるみが事故をまねく、と改めて感じました。自分は大丈夫だと思っけていても、いつ事故に巻き込まれるかわかりません。家の近くの危険な場所を知って、そこをどう通るかで、事故は防げます。事故を防ぐには、交通ルールを守ることが最善の方法です。そして、ルールを守ることは、当然の事です。交通ルールを守らないから、事故が起こります。愛知県は、死亡事故が一番多いです。一件でも事故を減らして、大切な多くの命を守っていきたいです。そして誰もが安心して暮らせる、そんな街にしていきたいです。

「さりげない優しさ」

朝日丘中学校 一年

田上 理紗

みなさんは、考えた事あるだろうか。青に変わると音がなる信号機と、音のならない信号機の方がいい。私は前までは、音のなる信号機を通っても「リズムがいいな」ぐらいにしか思っていなくて、さほど気にも止めていませんでした。けどなんで音がなるのかわかると、「みんなが安全にわたれるような工夫をしているんだなあ」と、とても感心しました。その考えが変わるきっかけとなった出来事を今から話します。

少し前の話です。みなさんもこういう場面にそうぐうした事があるかもしれません。音のならない信号の所に、一人の女性がずっと立っていました。青になっても、動くけはいはありませんでした。私は、もしかしたらと思い信号をわたるのをやめて、そのままそこにとどまっていました。そして、二回目の

青になりました。その女性は、わたろうとはしません。そこで私は考えが確信に変わっていきました。勇気をふりしぼって、私はこういいました。

「あの、青になりましたよ。」

私がそういうと、その女性はにっこりと笑って、「ありがとう。私、実は目が見えないの。助けてくれてありがとう。」と喋ってくれました。そこで私は、信号には、みんなの交通事故を防ぐためだけではなく、目が見えない人の

の事もしっかりと考え、工夫を重ねている事が分かりました。そして、目の見えない人はふだんどうやって青になったかを見極めていのかを疑問に思いました。やっぱり私は、音でしか判断できないと思います。もし、本当にそうだとすれば、音がなる信号に全て変えてくれればいいのになと思います。でも信号が全部音のなる信号に変化してしまうとそれはそれで、近所の人の迷わくになってしまったら、色んな信号の音がまぎって、こん

らんしてしまうなどの事も予想できません。でも色んな信号の音がまざって、こんらんしないように、少しずつ音の高さを変えたり、近所の人の迷わくにならないように、小さな音でもいいので、目の見えない人の事も考えてせひ、少しでも、音のなる信号を増やして欲しいと思います。私達は、目が見える。だからこそ、目の見えない人達の目線から考えてその人達の心も見えるようにしたいです。そうして、目が見えない人も、目が見える人と同じぐらい、当たり前のように、判断出来る。交通事故も減少出来るような未来になると、いいなと思います。そして、そのために、今からでも、声をかけるところから始めて行こうと思います。

そして、私が見なさんに、一番伝えたい事は、信号だけに限らず、もし、困っている人を見かけたら、勇気を出して、はずかしがらずに、「大丈夫ですか」と積極的に声をかけられるような人になりたいし、そういう人が少

しでも増えてほしいという事です。いきなり「大丈夫ですか」と声をかけるのは、とても勇気がいると思います。なので、私の思いつく限りでは、その目の見えない人に聞こえるように、「青になったー」とつぶやいてみるのもいいと思います。そういう、さりげない優しさが、目の見えない人などにとって、とても安心感をあたえると思います。しかも、音のならない信号のところまで、そういう思いやりの心を持つ人が増えていくと、全体的に優しく、明るい人たちがばかりの町になると思います。

「危ない」の前に

朝日丘中学校 一年

岸 馨子

「危ない」そんな言葉一度は耳にしたことがあるだろう。私の住んでいる町は、自転車による事故数が、ワースト10に入るほど沢山の事故がおこっている。この状態を少しでもかえていくことが大切だと私は考えた。

ある日、私は友達と自転車で乗って遊んでいた。死角が多い道、気をつけて通り、もち

ろん一時停止もした。だが、私の目の前に、車が突然現れ、ぶつかりそうになった。気をつけていても、事故の可能性はゼロじゃないと、この時、身をもって感じた。

このことから、自転車事故が減らない理由について考えた。それは、普段から気をつけるということだ。気をつけていても起ってしまった事故、気をつけていなければ、事故にあり可能性は高くなる。まず、自転車を運転する上での、意識を高めることが必要だ。

私が、自転車安全教室で学んだことをふまえて、大きく二つのことをする必要があり。一つ目は、周りを見る、見させることだ。一見、当たり前だと思いがちだが、とても重要なことだ。周りを見るという面では、自分が加害者、被害者にならないため、気をつける必要がある。自転車を運転する時、横から飛び出してくるワーストがあるが、しっかり人や車が出てきそうな所を見ていけば、衝突する可能性も減る。

二つ目は、常に自転車を点検することだ。自転車を買った時に入る保険で、T5マーク付帯保険というのがある。これは、一年間は有効だが、点検の忘れで切れていることがある。もしもの時に、大切になる保険なので、チェックしておく必要がある。点検には、さまざまなものがあるが、自転車を運転する前に出来ることがある。それは、ブレーキが左右しっかりかかるか、ライトはつくか、タイヤに空気は入っているか、この三つだ。その

中でも重要なのが、ライトだ。暗くなると、必要不可欠になるライトだが、使えなくなることで、ドライバーに見落とされ、事故につながることもある。このようなことになる前に、点検が必要だ。簡単に出来ることで、少しでも自分の身を守れるというが分かる。

自転車には、沢山のルール違反があり、事故の大半は、自転車に違反があるとわかっている。だからこそ、直すことができることがあるのではないのかと、私は思った。

身の周りには、沢山の危険が、ヒヤンであり、明日、事故にあってもおかしくはない状況にある。今の状況を変えられるのは、私たちだと思った。

今、この瞬間にも、事故が起きているかもしれない。私は、このことを少しでも多くの人に知ってもらい、自転車事故の身近かさに気づいてほしい。

これから、部活動などで、自転車を使うことが、多くなる。使いやすいがゆえに、起こ

る事故も多い。

これから私は、楽しく、よりよく、自転車を使うために、自分自身が点検をしっかりして、意識を高めようと思った。又、積極的に呼びかけにも参加し、周囲の人の認識を高めたい。

一人が少し気をつけるだけで、減る事故が、沢山ある。一人でも呼びかける人がいるだけで、気をつけられることがある。そんなことを思い続け、私が目指すのは、この町から「危ない」そんな声がなくなることだ。

「自転車との付き合い方」

豊田高校 一年

桐山 莉奈

「あの人の自転車の乗り方、危ないない。こんな風に、見て感じたことはありませんか？ テレビの特集などで、車と自転車のどちらかのルール違反による接触びげを負ってしまった。または命をも落としてしまった。たまたま事故をたびたび見かけます。私は自動車の免許は持っていないので分かりませんが、自転車は、学校への通学や遊びに行くときに利用することが多く、欠かすことができません。交通事故が自分に起こるなんて、現実にならないだろうと思ひ、関係ないと思ひ、ていませしたが最近、自分の運転に対して怖いなと思ひ出来事がありました。

ある日の登校の際の事です。通学路にもなっている狭い二車線道路があります。その道は、私が利用する時間帯が通勤時間と重なっているため、自動車がよく通る道です。歩道

がない為、途中まで左側の車道の白線に沿って運転していますが、少し先の交差点で横断歩道を渡るのが時間がかかって嫌だった。その後ろを確認してから車道を斜め横断したところ、前から車が来ていました。早くから気付いたので大事にならなかったけれど、怖い思いをしました。無事に渡っていたとしても、逆走になるのでダメだと思いました。

自転車に乗っている人を客観的に見るには車から見る方がいいと思います。私の自転車が壊れてしまったときに、バスを利用しました。すると、車からの目線や周りの状況を見ながら観察することが出来ました。サラソーマンの人や買い物に行くところとする主婦、学生など、たくさんの方が利用していました。

高校生は並列走行をし、横を見ながら話す姿をよく見ます。前を見ていない状態で、人が歩いていたら危ないと感じます。また、スマートフォンが普及してきたからか、イヤホンを耳にはめて音楽を聞きながら運転している

人がたくさんいました。救急車のサイレンの音、事故が起きると予測して鳴ったクラクションの音。大事な音まで聞き逃してしまいました。自転車も、運転する時は視野を広くし、安全に走行しなければならぬと感じました。車の免許を持つ父が言っていたのですが、フラフラと走行している利用者は、何を考えているかが分からないから、急に車道に飛び出したりするので怖いと言っていました。事故が多発しているのには自転車が深く関係しているのだなと感じました。

先日、学校内で自転車講習会が行われました。傘差し運転に、重い荷物を置いての走行、保険の話しなどたくさん知識を得ることができました。一番身近にある、便利な自転車を使いこなし、事故を減らすためには一人一人に安全走行をするための知識を与えることが大切だと思います。まずは、自分が安全走行をし、それが広がっていけばいいと思います。また、地域の方が行っている交通安全パ

トロールに自分が参加し、貢献できるように頑張ります。

「おばあちゃんが教えてくれた事」

豊田西高等学校 一年

松川 杏奈

「どうかおばあちゃんが助かりますように。そう心で祈りながら祖母のいる大阪へ向か。た。」

私が中学二年生のとき、私の祖母は交通事故にあ。た。夕飯のカレーに使う玉葱がな。たためスーパーに買い物に行。た。帰り際、自転車を押して歩いているとき、車と勢いよ

くぶつかり、十メートル以上はぬられたらしい。救急車で早急に病院へ運ばれてい。た。その知らせを受け、私と母が急いで祖母のいる病院に行くと、祖母は幸い助か。た。しかし、ケガをしてばんばんに膨れた手足と頭、く。きりとついた青や紫の痣で一瞬誰だか分からな。か。た。体中が擦傷だらけで、それは事故の悲惨さを物語。ていた。正直にいうと、そのときの祖母は見ていてつら。か。た。私達が来ると祖母はう。すらと目を開いて、

言。た。

「杏ちゃん、よう来たね。遠いところから大変や。たやろ。そんな大した事ないのに。悪いね。」

「そんなことない。それより、おばあちゃん具合はどうなん？」

「もう体中があ。ちこ。ち痛くて、立たれへんねん。せ。かく体操の大会もあるのに。」祖母は骨盤骨折だ。た。そのとき立てないのも骨盤がく。つくまで絶対安静のためである。

また、祖母はめずらしく弱気だ。た。趣味の体操をや。ている祖母はいきいきとしていた。事故はその楽しみさえも奪。てしま。た。

今回の事故の加害者は何故、事故を引き起こしてしま。たのか。スマートフォンを片手で操作しながら運転していたらしい。一瞬、画面を見たとき、事故は起きた。

私は怒りを覚えた。よそ見運転をしたために、祖母は大ケガを負い、平穏だ。た日常は壊された。危うく、命が一つ落とされそうに

な、たのだ。そんな自分勝手な人間で良いのか。よそ見をするのは一瞬だけれど、そこから与える影響、被害者の痛みと記憶は一生消えない。どれだけお金をもらっても、加害者側はどれほど謝ま。たとしても、被害者の日常は簡単には取り戻せない。いや、二度と戻ってこないのかもしれないのである。

また、私は恐怖を覚えた。一瞬のよそ見、「一度だけ」という気のゆるみが予想外の事故を引き起こす。運転を日頃からしている方

「少しでも」を許している自分がいないか振り返ってほしい。スマートフォンに限らず、カーナビゲーションの操作、景色を見たり。運転をする、ということとは車に他人や自分の命を預けたことになる。命を守るためにもしっかりハンドルを握りしめ、責任を持って運転してほしい。これは被害者の家族の願いである。

しかし、事故は責任のすべてが車にあるわけではない。自転車や歩行者だ。て気をつけ

れば防げる事故は沢山ある。スマートフォンを見ながら、音楽を聞くためにイヤホンを耳につけながら、通話しながら。その「ながら」がどれだけ危険を招いているのだろう。自動車、自転車、歩行者。道の利用の仕方はそれぞれ違う。けれどそれぞれは同じ、人が使っている。

事故の確率はいつも百パーセントではない。しかし、零パーセントでもないのだ。祖母の事故をき、かけに交通事故について考えた。

私もひやっとするような体験が一度だけではない。私自身もきちんと反省すべきだ。

この祖母の事故が次の事故を防ぐために役立ててもらえば幸いだ。

「新、三つのやくそく」

竹村小学校 四年

山田 美空

「ガッチャリン」

とつぜんのできごとだった。習い事に行く
とちゅう、スマホをいじった男の人とぶつ
つた。わたしも男の人も自転車だった。一人
で自転車に乗り習い事に行くことになり、お
母さんと注意しなければいけない場所を何回
もかくにんした。信号のない交差点のため、
左右を見て、車も来なかっただけであつた。左
したら、右からもすごいスピードで自転車が
来た。わたしは自分の自転車の下じきにな
った。何かおきたのかわからなかったが、す
ぐに男の人が、
「大じょうぶ。」
と言い、自転車をあげてくれた。わたしはい
やな思いをしながら、しぶしぶ習い事に行
た。今年一番のさい悪な日になった。
ちゅうど二年前、お母さんもそこにあつた。

その時に三つの交通ルールを見直した。

- 一、左右をかくにんして歩く。
 - 二、道路には飛び出さない。
 - 三、信号が点めついたらわたらない。
- この三つのやくそくを守ると決めたはずなの
に、ぶつかわってしまった。その時、お母さん
から言われたことを思い出した。自分がど
んなに気をつけていても、そこにあうこともあ
るということ。し、かり左右をかくにんし
ても急に来る自転車には、わたしはどうする
こともできない。まして、スマホを見て前を
きちんとしていなければ、相手の人もと、さ
のはんだんができないと思う。家に帰り、お
母さんに話をしたら、わたしの体を第一に気
にしてくれた。落ちついて自転車をみると、
かごがぐしゃぐしゃにへこみ、何かし、かに
きずもできていた。よく目には足首がいたく
なっていた。あらためてぶつかわたし、うげ
きを知り、ぞ、とした。
「これですんでよか、たね。」

と、お母さんは言う。お母さんが事ここにあつた時は、何ヶ月も病院に通い、時にはいたみ止めの薬を飲んで仕事に行っていた。数日しづぶをして良くなつたわだしだが、こつせつしたり、プレゼントされた自転車に乗れないほどぐちゃぐちゃになつていたらと思つと、心のきずも負うことになる。こつせつや自転車のきずは、ちりぐちゃやしゃう理すればよくなるが、心のきずはずつとなおることはないし、思い出すと急にきづぐちゃ心におそわれたりすると、思つ。

今回の事こで、さらに三つのやくそくを必ず守つていこうと強く思つた。二年前は自転車どこかへ行くことはなかつたが、今は自転車でい動することが多くなつた。お母さんとも話し合い、三つのやくそくをかきせんしてみた。

一、交差点では必ず止まり、左右をし、からかくにんしてわたる。

二、左がわ通行を守り、飛び出さない。

三、信号を守り、点めつしたらわたらない。自転車を乗るマナーとして、ヘルメットをかぶることやかた手運転をしないことは、あたり前のことのため、新しい三つのやくそくをつねに頭に入れ、事ここにあわないう気をつけていきたい。

今年の夏はポケモンG0がはやり、いつでも、どこでもスマホをいじつている人がとても多い。歩行者でもあぶないと思つ場面をよく見る。注意したいが、知らない人に注意をきない自分もいる。まずは友達や知つている人に、注意できる人になりたい。二人の弟にもわたしと同じことであつてほしくないため、弟たちにも交通ルールの大切さを伝えていきたい。

「危険はすぐそばに！」

高橋中学校 一年

中根 杏

交通安全とって思い出す最近の出来事があります。ある日、私は母と車で出かけました。家を出て、家の近くのお寺を通り過ぎようとした時、小学生の男の子がものすごいスピードで左右の安全の確認もしないで飛び出しそうになりましたが、車に気が付いてあわてて止まりました。母が、あわてて急ブレー

キをかけて車が止まっていたので男の子は、安心して道路を渡りました。男の子が渡り終わったので、発車しようとした瞬間、自転車に乗った小学生の女の子が左右の確認を全くしないでものすごいスピードで車の前を通り過ぎました。もし、あと一秒・二秒時間がずれていたら、母の運転する車と自転車はぶつかり、事故になる所でした。一瞬の出来事に私は怖くなり、手足が震えてきました。道路に出る前に左右をしっかり確認するという交

通ルールが守れないのはとても危険です。たった一つしかない命です。自分で気を付けなければだれも守ってくれません。

そして、私自身も小学校二年生の時、眼科によつた帰り道で危ない目にありました。診察が終わり、横断歩道を渡ろうとした時でした。青信号が点滅し始めたので母が、

「急いで渡るよ！」

と言いました。母の言葉で私は走って横断歩道を渡ろうとしました。その時、すごいスピードを出した車が信号を右に曲がってきました。私は、その車に全く気が付きませんでした。母が急に大きな声で、

「危ない！」

と叫びました。その時、私はびっくりして、母の所へ急いで戻りました。すると、車が目の前をものすごいスピードで、タイヤをキーン、キーンと鳴らしながら、通り過ぎていきました。車が通り過ぎた後、私は心の中で、「もう少しでひかれて死にそうだった。」

と思いました。そう思うとさらに怖くなってきてその場に座りこんでしまいました。私は母の声を聞いてすぐに母の所に戻ったので助かりました。この経験から、たとえ青信号でも左右をしっかり確認して、注意しながら落ち着いて渡るようにしようと思うようになりました。そして、横断歩道を渡っていたとしてもどの車も止まってくれるわけではないということがよく分かりました。

交通事故というのは車と車の事故や人と車の事故だけではなく人と人の事故もあります。私の兄は、小学生の時放課になると運動場でよく友達とサッカーをして遊んでいました。ある日、いつものように朝学校に行って運動場でサッカーをしていました。兄は、ボールばかり見て走り、少しバックしてから前を向いた瞬間、顔を強打してしまいました。くっつひもがほどこけた子がしゃがんでひもを直して立ち上がった所に兄の顔が当たってしまったそうです。兄の鼻は「ズキン、ズキン」と

して痛くなり病院に行って検査をしたところ、鼻の骨が曲がっているので手術をして治さなくてはいけなくなりました。兄が手術するのでも小学校二年生だった私は、一人で留守番をして三日間待ちました。学校から帰ってだれもない家で泣きながら宿題をして、怖いのでも布団にもぐっていました。この時、家族みんなが元気でいる事の大切さを知りました。家族の温かさを知りました。事故というのは、事故をした人だけでなく周りの人にも迷惑をかけてしまうことがよく分かりました。

これから自転車に乗って遠くの方まで自分で出かけることが多くなると思います。たとえ信号が青信号でも「右、左、右」をしっかり確認して事故にあわないように気を付けます。口たった一つしかない命。自分の命は自分で守るしかない。ので、交通ルールをしっかりと守って大切な自分の命を守っていきたくて

「危機一発で助け、亡命」

井上小学校 五年

下深迫 まなみ

私の家族は、だれも交通事故にあつていません。ですが私の弟がまだ小さいころ、交通事故にあつたことがあります。

私の家の前には、とてもきれいな花のさいている花だんがあります。その花だんには、よくモニシロチョウやモニキチョウ、アゲハチョウなどとても色々ざやかなチョウがとんで来ます。とてもきれいなので私も弟も、よくあみを持って花だんの方へチョウをつかまえに行つていました。ときどき私もついでつてチョウを探してつかまえて、チョウをながしてもう一度つかまえるという遊びをしていました。私の家の前は、あまり車が通らないので、よくなわとびやひくれんぼをして、近所の子と学年男女関係なく楽しくあそぶこともありました。

でもある日、とても面白い事がおきました。

弟が家で昼ねをしていた時、私は、とてもたいくつだ、たので一人で家の前の花だんで人ご虫を探して遊んでいました。そしてしばらくしたら家の中から弟の声が聞こえました。「お母さん。お姉ちゃんはどこに行つたの？」すると、お母さんが、

「家の前の花だんにいるよ。チョウも多分いるよ。あみを持って行つておいでよ。」

と、言いました。すると弟が「いい、てきます。」

と、言つて家から出て来ました。すると、花だんの前をとめてきれいなアゲハチョウがとんでいたので私は弟に向か、て

「はやくおいでよ。きれいなアゲハチョウがいるよ。早くしないとチョウがにげちゃうよ。」

と、言いました。すると弟が「うん。分かつた。今行く。」

と、言つて走つて来て来ました。花だんに来るには、道路を横切らなければなりません。

弟はた、て私の方にや、て来ます。

「チヨウウチヨどこにいたの。」

と、その時、右から車がや、て来ました。でも弟は、車に全く気付いていません。

(あ。どうしよう。車が来てる。)

私はそう思いながら弟を見つめました。

まだ小さか、た私は、交通事故という言葉の意味をよく知りませんでした。

「お姉ちゃん。チヨウウチヨはどこにいるの。」

弟が走、て来ます。そしてブザーと音をたて

て車もや、て来ました。

「あ、おない。」

危機一発で車は止ま、てくれましたが、私は、は、とてもこわい出来事でした。

それ以来私は、道をわたる時は、右左を見る事や飛び出さない事にとっても気をつけています。



優秀／早坂 柚那（若林東小1年）



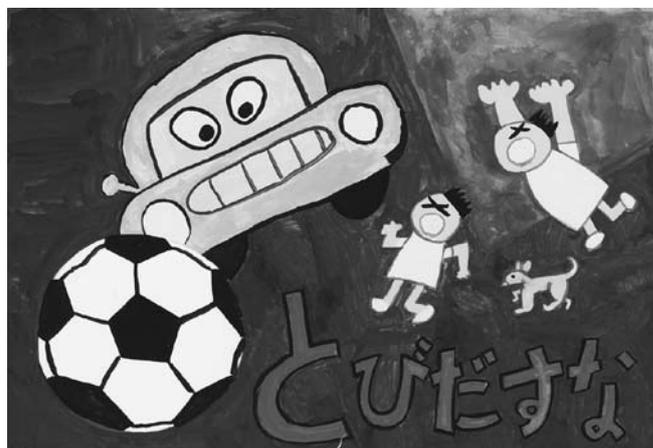
優秀／成田 衣理（畷部小3年）



優秀／森 奏子（山之手小2年）



優秀／原田 泰正（堤小5年）



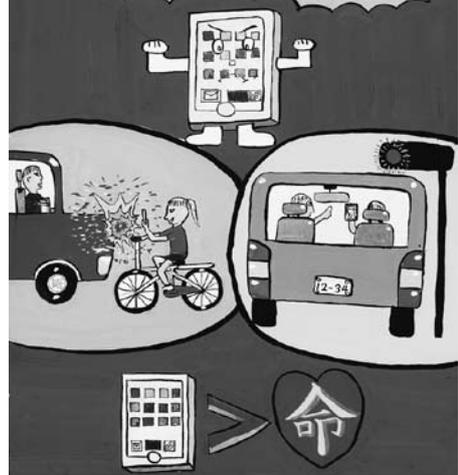
優秀／安部 壮一郎（浄水小4年）

自転車も止まろう



優秀/森岡 拓海 (平和小6年)

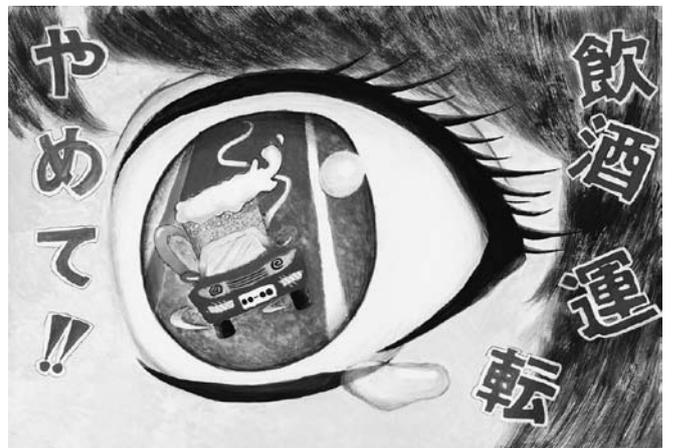
命よりスマホが 大切ですか



優秀/伊藤 彩梨桃 (五ヶ丘東小6年)



優秀/新田 晏夕 (豊南中3年)



優秀/前田 果穂 (松平中2年)



優秀/佐藤 愛莉 (豊田西高1年)



優秀/丹 夢花 (保見中3年)



佳作/伊藤 瑞姫 (四郷小1年)



佳作/釧木 蓮斗 (衣丘小1年)



佳作/岩田 瑞生 (伊保小1年)



佳作/上田 咲絢 (平井小1年)



佳作/小柳 ひな (小清水小1年)



佳作/関 琉之介 (前山小1年)



佳作/久野 蒼葉 (青木小2年)



佳作/水光 健人 (若林西小1年)



佳作/伊藤 蒼太郎 (四郷小2年)



佳作/山田 梨暖 (駒場小2年)



佳作/田中 凜 (梅坪小2年)



佳作/加藤 蔵馬 (若林東小2年)



佳作/古賀 梨央 (竹村小2年)



佳作/石黒 百香 (畝部小3年)



佳作/入江 舞奈 (青木小3年)



佳作/井上 千愛 (山之手小2年)



佳作/水越 あみ (明和小3年)



佳作/赤星 日菜乃 (高嶺小3年)

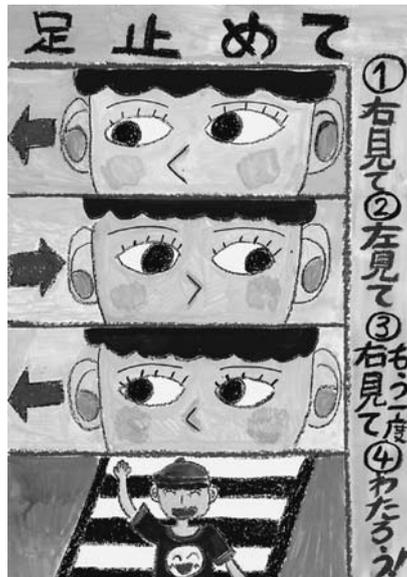


佳作/久米 倅千乃 (畝部小3年)

ポスター佳作



佳作/神谷 直太郎 (岩倉小4年)



佳作/中根 颯斗 (青木小4年)



佳作/野場 梨紗子 (若園小3年)



佳作/福田 結 (大林小4年)



佳作/高木 萌加 (畝部小4年)



佳作/中野 結衣 (若園小4年)



佳作/安部 カリノ (堤小4年)



歩行者も まわりをよく見て 歩こうね

佳作/小澤 一輝 (竹村小5年)



佳作/小野山 隼斗 (竹村小5年)



佳作/呉竹 秀太 (東山小5年)



佳作/河内 桜々 (堤小5年)



佳作/森岡 美月 (平和小5年)



佳作/小笠原 眞心 (平和小5年)



佳作/松崎 結菜 (小清水小6年)



佳作/残間 優一郎 (畝部小6年)



佳作/菱田 雄太 (竹村小6年)



佳作/増田 英里子 (竹村小6年)



佳作/大岡 優心 (高嶺小6年)



佳作/加藤 真伊 (豊南中3年)



佳作/野上 侑那 (高橋中3年)



佳作/菊池 律杏 (東山小6年)



佳作/鈴木 翔亮 (保見中3年)



佳作/三宅 春花 (保見中3年)



佳作/竹内 綾 (豊南中3年)



佳作/近藤 滉平 (豊田西高1年)



佳作/一本 亜未 (豊田西高1年)



佳作/神田 聖子 (豊田高1年)

交通安全標語の部

◎は優秀 ○は佳作

《とよた3Sドライブの推進》

- | | | |
|-------------------------------|-------|------------|
| ◎ そこでStop! Slowでいこうぜ Smartに!! | 前林中学校 | 3年 深津 未紘 |
| ○ 余裕ある? あなたの心と 車間距離 | 明和小学校 | PTA 杉本 知奈津 |

《歩行者・高齢者の事故防止》

- | | | |
|------------------------|---------|-----------|
| ◎ ぼくはここ おおきくあげる ちいさなて | 伊保小学校 | 1年 佐々木 陽琉 |
| ◎ おじいちゃん 無事故無違反 金メダル | 飯野小学校 | 5年 加藤 実藍 |
| ○ わたるまえ しんごうよく見て 車見て | 寿恵野小学校 | 2年 高村 麗皇 |
| ○ だいじなの スマホといのち どっちかな | 浄水小学校 | 3年 石原 瑞月 |
| ○ 前見ずに スマホを手に取り 命取り | 豊田高等学校 | 1年 加藤 真央 |
| ○ にぎってね スマホじゃなくて わたしの手 | 豊田北高等学校 | 2年 竹内 友菜 |

《飲酒運転の根絶》

- | | | |
|-----------------------|----------|----------|
| ◎ アルコール 飲んだその日は アルコーヨ | 猿投農林高等学校 | 3年 豊丸 直希 |
| ○ 飲んだ人 止める勇気が 事故防ぐ | 五ヶ丘小学校 | 6年 築山 賢生 |

《シートベルト・チャイルドシートの着用推進》

- | | | |
|--------------------------|---------|-----------|
| ◎ ベルトはね 命を守る 親の愛 | 中山小学校 | 6年 檀浦 諒芽 |
| ○ ベルトした? みんなでかくにん しゅっぱつだ | 五ヶ丘東小学校 | 1年 金子 芽生 |
| ○ ゆるみなく しめる心と シートベルト | 井上小学校 | 2年 松井 咲蘭 |
| ○ かちっとね 耳・目で確認 全ざせき | 梅坪小学校 | 4年 志自岐 凌大 |

《自転車のマナー向上》

- | | | |
|-----------------------|---------|----------|
| ◎ 手にスマホ 耳にイヤホン 事故のもと | 豊田南高等学校 | 1年 糸見 真宏 |
| ○ ヘルメット ぼくの命の 守り神 | 寿恵野小学校 | 4年 武田 京馬 |
| ○ 自転車も ハンドル持ったら ドライバー | 若林西小学校 | 5年 梶田 怜志 |

《交通安全全般》

- | | | | | |
|--------------------------------|----------|-----|----|-----|
| ◎ うんてんに 集中しないと あの世へGO | 高嶺小学校 | 3年 | 杉山 | 明良 |
| ◎ 停止線 みんなを守る 命の線 | 大林小学校 | 5年 | 鬼沢 | 美咲 |
| ◎ 運転は 生きる証と 死の恐怖 | 平戸橋町 | | 小沼 | 房子 |
| ○ おとうさん スマホより子どものいのち だいじでしょ？ | 四郷小学校 | 2年 | 江口 | 璃音 |
| ○ イヤホンで 大切な音 けしてるよ | 朝日小学校 | 3年 | 尾関 | 萌衣 |
| ○ わたしたち けいたい (スマホ) うんてん 見えています | 四郷小学校 | 4年 | 牛田 | 尚里 |
| ○ 自動運転！？ 最後のたのみは あなたの目 | 元城小学校 | 4年 | 松村 | 潤 |
| ○ ちょっとだけ・・・ スマホのちら見 事故まねく | 堤小学校 | 5年 | 原田 | 泰正 |
| ○ 慣れた道 とばす心に ブレーキを | 寺部小学校 | 5年 | 杉浦 | 聖典 |
| ○ まだ行ける そんな気持ちが 赤信号 | 寿恵野小学校 | 6年 | 成田 | 知華 |
| ○ その違反 だれかの瞳が 見つめてる | 童子山小学校 | 6年 | 光田 | 憲祥 |
| ○ 聞こえない 助けを求める サイレンが | 豊田南高等学校 | 1年 | 石川 | 由梨 |
| ○ 「おかえり」の 笑顔見るまで 気を張って | 猿投農林高等学校 | 1年 | 丹羽 | 菜々美 |
| ○ 軽い気で ながらスマホで 重い罪 | 猿投農林高等学校 | 2年 | 高橋 | 耀太 |
| ○ おみやげは 無事故でいいよ お父さん | 若林西小学校 | 保護者 | 太田 | 有香 |
| ○ 安全は 「見る」「待つ」「ゆずる」 ゆとりから | 若林西小学校 | 保護者 | 柴田 | 利樹 |

それいけ! 安全君 by K太



歩きスマホは危険です!

それいけ! 安全君 by K太



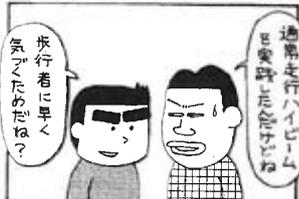
自転車の交通ルールを正しく守りましょう!

それいけ! 安全君 by K太



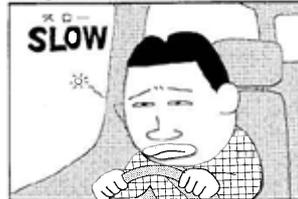
交通事故ワースト1を返上しよう!

それいけ! 安全君 by K太



対向車がないときはハイビームが基本です

それいけ! 安全君 by K太



・発進・停止の際は【Slow】
・加速を少なく【Smart】
・歩行者を見たら【Stop】

それいけ! 安全君 by K太



高齢者の交通事故が増えています!

平成28年度 交通安全作品 応募・審査結果

交通安全作文の部

	応募数	最優秀	優秀	佳作
小学校(低)	3	0	0	0
小学校(高)	6	1	1	1
中学校	134	3	3	1
高校・一般	260	2	2	0
合計	403	6	6	2

交通安全ポスターの部

	応募数	最優秀	優秀	佳作
小学校(低)	1,223	2	3	20
小学校(高)	1,631	2	4	18
中学校	721	1	3	5
高校・一般	328	1	1	3
合計	3,903	6	11	46

交通安全標語の部

	応募数	優秀	佳作
小学校(低)	1,709	2	6
小学校(高)	1,561	3	10
中学校	777	1	0
高校・一般	1,025	3	8
合計	5,072	9	24

たくさんのご応募
ありがとうございました。

総計（作文・ポスター・標語）

	応募数	応募学校数
小学校(低)	2,935	64
小学校(高)	3,198	
中学校	1,632	19
高校・一般	1,613	4
合計	9,378	87



豊田市教育委員会賞



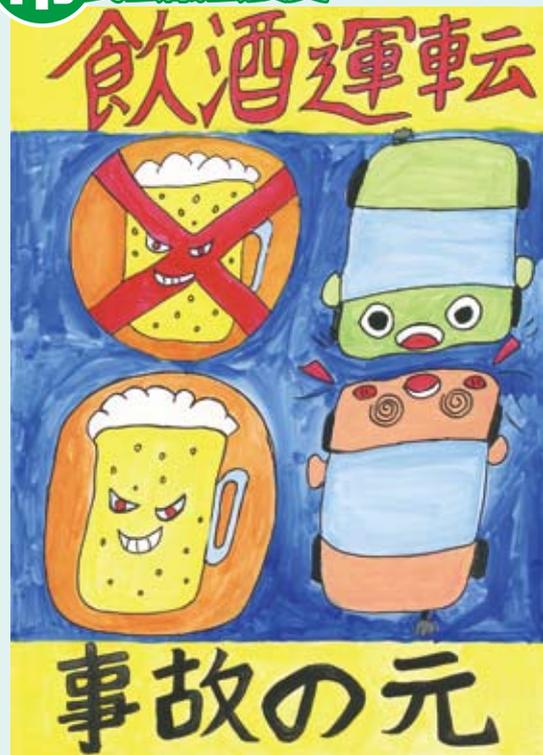
石橋 善心 (若林東小3年)

足助警察署長賞



山田 健太郎 (稲武中2年)

市民会議会長賞



後藤 愛 (朝日小4年)

豊田市交通安全市民会議事務局

豊田市役所 交通安全防犯課内

〒471-8501 愛知県豊田市西町3-60
TEL0565・34・6633 FAX0565・32・3794
HP <http://www.signal.toyota.aichi.jp/>

